

笠松春まつり 県重要無形文化財「大名行列お奴」を

笠松中学生が伝統を受け継ぐ。

4月13日(日)に産霊神社から八幡神社で披露される大名行列「お奴」を盛り上げている笠松中学校の生徒が紹介されました。

三輪 桜佑さん、早水 龍太さん、堀 琥太郎さん、辻 茉奈佳さん、政井 梨央さん、田島 楓華さん、名和 珠央莉さんが参加してくれます。

【写真】岐阜新聞 4月9日(水)朝刊より

2025年(令和7年)4月9日 水曜日

「大名行列お奴」 笠松中学生が支え

笠松町の春祭りを締めくくる「大名行列お奴」が13日、同町八幡町の八幡神社などで披露される。今年は高齢化により途絶えていたみこしが15年ぶりに復活し、コロナ禍を境に参加を見送っていた中学生も行列に加わる。関係者は「地域の全世代で祭りを传承していこう」と意気込み、稽古に励んでいる。
(安井真由子)

参加希望60人、みこしも15年ぶり復活

行列は江戸時代に皇女和宮が嫁入りする際に始まったとされ、大きいものでは重さ10キロにもなる毛やりを投げ渡ししながら進む。戦争や人手不足による中断もあったが、1991年に発足した保存会が継承しており、95年には県重要無形民俗文化財に指定された。

2020年に新型コロナウイルスが拡大したことから子どもたちは参加を取りやめ、収束した24年もそのままに。今年に入り、同町出身で、町唯一の中学



大名行列に向けて稽古する中学生＝笠松町役場



15年ぶりに復活するみこしを中学校へ運ぶ生徒＝笠松町内

13日の本番へ稽古に熱

13日は、八幡神社で正午から、産霊神社(西宮町)で同1時30分から披露する。

校である笠松中学校で校長を務める河合善夫さんが「中学生の力で地域を元気にできないか」と保存会に提案した。校内で希望者が60人ほど集まり、担ぎ手不足のため長い間蔵にしまわれていたみこしも復活することになった。

今年2日から稽古が始まり、中学生が大人に交じって足の動かし方や毛やりの手さばきを教わっている。2年の三輪桜佑さん(13)は「一つを覚えると別の一つを忘れてしまっていて、難しい」と何度も動きを繰り返した。早水龍太さん(13)は「緊張の方が大きいけど楽しみな気持ちもある」と本番を心待ちにしていた。

稽古を見守っていた野々垣美樹会長(77)は「若い人と一緒にやるのは最高」とどきどきの笑顔。「就職して忙しくなるとやめてしまふ人も多い。このまま長く続けてくれたらうれしい」と願った。